

千葉県石油コンビナート火災に伴う石油流出事故

油汚染鳥の調査報告

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震を原因とする、千葉県五井の石油コンビナート火災に伴い、破損したタンクから石油が漏れ出し、15日の時点で100羽ほどの油汚染鳥が確認されました。

この事態を受け、野生動物救護獣医師協会では関係諸団体と連携し、情報整備及び油汚染鳥救護活動の支援を行ってまいりました。

3月19日の情報では、同日、油汚染のスズガモ2羽が保護され、収容施設に搬入、同時にスズカモ2羽、ヒドリガモ1羽、ハジロカイツブリ1羽の死体が回収されたということでした。

その後、火災が鎮火したことから、3月30日に環境省鳥獣保護業務室、千葉県自然保護課のご担当者と共に、現地調査を行いました。この調査でスズガモ約30羽が観察されましたが、油の付着は確認できませんでした。死体も発見されておられません。渡りを含め、分散、若しくは生息数そのものが少なくなっているようです。30日時点、調査後の見解といたしましては、流出油の防除作業がほぼ終了した海上の様子から、今後、数羽程度の保護は可能性があるものの、事態は終息に向かっていると判断いたしました。

今後も、油等汚染鳥や被災動物の救護活動を通し、災害復興の支援をしてまいります。

特定非営利活動法人
野生動物救護獣医師協会